

平成28年度 目黒区立学校における不登校の状況について

1 不登校児童生徒の定義

当該年度の4月1日から3月31日までに、30日以上欠席した児童生徒で、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者（ただし、心身の疾病やけが等を除く）をいう。

2 対象期間

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

3 不登校児童生徒及び学年別内訳（単位：人）（ ）内は前年度不登校であった児童生徒数再掲

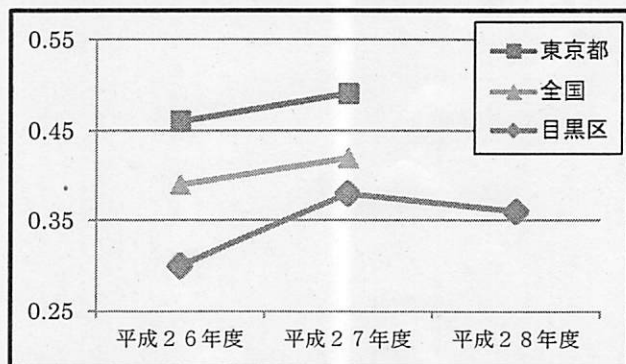
	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
小学校	平成26年度	1 (0)	2 (2)	1 (1)	3 (1)	6 (4)	12 (6)	25 (14)
	平成27年度	2 (0)	3 (1)	8 (1)	6 (1)	6 (2)	7 (4)	32 (9)
	平成28年度	0 (0)	4 (1)	2 (0)	10 (5)	6 (3)	10 (3)	32 (12)
中学校	平成26年度	14 (4)	28 (18)	17 (13)				59 (35)
	平成27年度	22 (9)	26 (11)	29 (21)				77 (41)
	平成28年度	14 (1)	26 (15)	22 (15)				62 (31)

4 不登校児童生徒の出現率（単位：％）

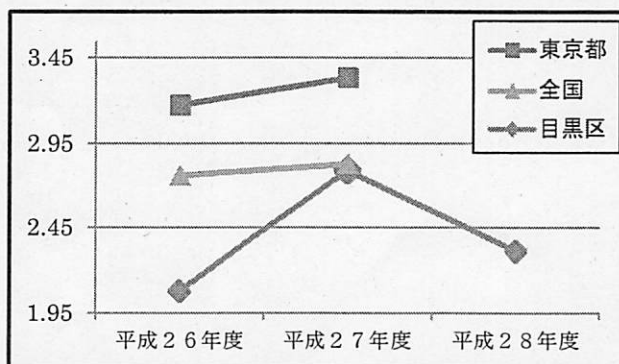
	年度	目黒区	東京都	全国
小学校	平成26年度	0.30	0.46	0.39
	平成27年度	0.38	0.49	0.42
	平成28年度	0.36	※	※
中学校	平成26年度	2.08	3.17	2.76
	平成27年度	2.79	3.33	2.83
	平成28年度	2.31	※	※

※ 平成28年度の東京都及び全国の数値は、文部科学省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」にて現在調査中

(1) 小学校の不登校の出現率（単位：％）



(2) 中学校の不登校の出現率（単位：％）



5 不登校になったきっかけと考えられる状況の具体例

- ① いじめ・・・・・・・・児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの
- ② いじめを除く友人関係をめぐる問題・・仲違い等
- ③ 教職員との関係をめぐる問題・・・・・・・・教職員の強い叱責、注意等
- ④ 学業の不振・・・・・・・・成績の不振、授業がわからない、試験が嫌い等
- ⑤ 進路にかかる不安・・・・・・・・将来の進路希望が定まらない等
- ⑥ クラブ活動、部活動等への不適應・・・・部活動をしているが試合に出られない等
- ⑦ 学校のきまり等をめぐる問題・・・・・・・・制服や校則等に対する不満等
- ⑧ 入学、転編入学、進級時の不適應・・・・入学前の学校像との相違等
- ⑨ 家庭の生活環境の急激な変化・・・・・・・・親の単身赴任等
- ⑩ 親子関係をめぐる問題・・・・・・・・親の叱責、親の言葉・態度への反発等
- ⑪ 家庭内の不和・・・・・・・・両親の不和、祖父母と父母の不和等本人に関わらないもの
- ⑫ 病気による欠席・・・・・・・・医師による診断の有無等に関わらない、心身の病気
- ⑬ あそび・非行・・・・・・・・遊ぶためや、非行グループに入ったりする等による登校拒否
- ⑭ 無気力・・・・・・・・無気力でなんとなく登校しない、登校しないことへの罪悪感が少なく、迎えに行ったり強く催促すると登校するが長続きしない等。
- ⑮ 不安など情緒的混乱・・・・・・・・登校の意志はあるが身体の不調を訴え登校できない、漠然とした不安を訴え登校しないなど、不安を中心とした情緒的な混乱等
- ⑯ 意図的な拒否・・・・・・・・本人が学校に行く意義を認めない、自分の好きなことに集中したい等

6 不登校になったきっかけと考えられる状況（単位：人）

（ ）内は前年度不登校であった児童生徒数再掲

区分		小 学 校			中 学 校		
		平成28年度	27年度	26年度	平成28年度	27年度	26年度
学校に係る状況	① いじめ	1 (0)	1	0	1 (0)	1	1
	② いじめを除く友人関係をめぐる問題	10 (0)	2	3	10 (6)	10	7
	③ 教職員との関係をめぐる問題	1 (0)	1	0	0 (0)	1	0
	④ 学業の不振	3 (1)	2	5	11 (6)	6	5
	⑤ 進路にかかる不安	0 (0)	1	2	0 (0)	2	1
	⑥ クラブ活動、部活動等への不適応	0 (0)	1	0	1 (0)	1	1
	⑦ 学校のきまり等をめぐる問題	2 (1)	0	1	2 (0)	0	0
	⑧ 入学、転編入学、進級時の不適応	0 (0)	5	0	3 (1)	7	0
家庭に係る状況	⑨ 家庭の生活環境の急激な変化	0 (0)	1	1	6 (4)	4	2
	⑩ 親子関係をめぐる問題	3 (2)	1	1	7 (4)	4	6
	⑪ 家庭内の不和	1 (1)	0	0	4 (2)	2	1
本人に係る状況	⑫ 病気による欠席	1 (0)	5	2	1 (0)	1	2
	⑬ あそび・非行	0 (0)	0	0	0 (0)	0	0
	⑭ 無気力	1 (0)	2	1	4 (2)	10	8
	⑮ 不安など情緒的混乱	4 (3)	8	6	5 (3)	20	21
	⑯ 意図的な拒否	0 (0)	0	0	0 (0)	1	1
	上記以外の本人に関わる問題	5 (4)	1	0	7 (3)	5	3
その他本人に関わらない問題		0 (0)	0	0	0 (0)	0	0
不 明		0 (0)	1	3	0 (0)	2	0
合 計		32 (12)	32	25	62 (31)	77	59
		男18・女14			男38・女24		

※不登校になったきっかけと考えられる主たる状況の一つ選択し回答

7 不登校児童生徒への対応状況（複数回答）（単位：件）

区 分		小 学 校	中 学 校	合 計
学 校 外	① 学習支援教室（めぐろエミール）	4	21	25
	② めぐろ学校サポートセンター教育相談	12	8	20
	③ スクールソーシャルワーカー	2	8	10
	④ 児童相談所、福祉事務所等	1	8	9
	⑤ 保健所、精神保健福祉センター	0	1	1
	⑥ 病院、診療所	9	9	18
	⑦ 民間団体、民間施設、フリースクール、塾 等	5	3	8
	⑧ 上記以外の施設	7	7	14
	計	40	65	105
学 校 内	① 担任	32	62	94
	② 養護教諭	15	35	50
	③ その他の教員	20	38	58
	④ スクールカウンセラー	24	46	70
	計	91	181	272
合 計		131	246	377

8 不登校の解消状況（単位：人）

	年度	登校できるよう になった	好ましい変化が 見られる	変化なし	合 計
小 学 校	平成26年度	5	11	9	25
	平成27年度	12	10	10	32
	平成28年度	15	8	9	32
中 学 校	平成26年度	12	22	25	59
	平成27年度	16	26	35	77
	平成28年度	24	23	15	62

9 登校できるようになった児童生徒に効果のあった学校の措置（複数回答）（単位：件）

内 容	小学校	中学校	合計
研修会・事例研究会で全教師の共有理解を図った	6	2	8
全ての教師が当該児童生徒との触れ合いを多くするなどして学校全体で指導に当たった	5	3	8
養護教諭が専門的に指導にあたった	2	3	5
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談員が専門的に指導にあたった	6	14	20
教師との触れ合いを多くし、教師との関係を改善した	4	3	7
授業方法の改善、個別指導などわかる授業の工夫をした	1	1	2
本人が意欲をもって活動できる場を用意した	9	7	16
保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった	8	5	13
登校を促がすため、電話をかけたり迎えに行った	10	13	23
家庭訪問を行い、相談に乗るなど様々な指導・援助をした	6	4	10
保護者の協力を求め、家庭生活等の改善を図った	6	4	10
サポートセンター（エミール）との連携を図った	1	2	3
病院等の医療機関と連携して指導にあたった	2	2	4
その他（他機関との連携等）	7	13	20
合 計	73	76	149

10 めぐろエミールの通級状況（単位：人）

（1）指導者 10人（学習支援教室主任1、非常勤教員5人、学習支援教室指導員4人）

（2）通級している児童生徒数

（ ）内は前年度から継続して通級している児童生徒数

	小 学 校							中 学 校				総計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	
男子	0	0	0	1	0	2(1)	3(1)	2	8(4)	10(3)	20(7)	23(8)
女子	0	1	0	2	1	0	4	8	5(1)	6(2)	19(3)	23(3)
合計	0	1	0	3	1	2(1)	7(1)	10	13(5)	16(5)	39(10)	46(11)

11 メンタルフレンドの派遣状況

（1）メンタルフレンド登録者数 8人

（2）実績

内 容	派遣人数	派遣回数	対象児童生徒数
学習支援教室（めぐろエミール）への派遣	複数の児童生徒との交流	7	104
	特定の児童生徒との交流	1	4
学校への派遣	0	0	0
自宅への派遣	2	43	2

12 eラーニングの利用状況（インターネットを利用した学習形態）利用状況一覧（単位：人）

（ ）内は前年度の登録利用者数

小6	中1	中2	中3	計
0(0)	8(9)	12(11)	12(14)	32(34)

1 3 教育相談の状況

(1) 教育相談員 11人

(2) 実績

() 内は前年度の実績数

内 容	不登校を主訴とした相談件数	総件数
来室相談	74 (67)	363 (385)
電話相談	13 (30)	69 (92)

1 4 スクールカウンセラーの派遣状況

(1) 派遣人数 57人 (都費スクールカウンセラー 30人、区費スクールカウンセラー 27人)

(2) 実績

小学校						中学校					
不登校を主訴とした相談件数					総件数	不登校を主訴とした相談件数					総件数
児童	保護者	教職員	その他	合計		生徒	保護者	教職員	その他	合計	
301	278	648	7	1,234	17,280	689	574	1,079	64	2,406	10,180

1 5 スクールソーシャルワーカーの派遣状況

(1) 派遣人数 1人

(2) 実績

	学校	家庭	教育委員会関係	関係機関	その他	合計
不登校を主訴 とした派遣	67	205	38	10	0	320
派遣総数	96	261	44	16	0	417

1 6 平成29年度目黒区立小・中学校における不登校問題への取組み

別紙のとおり

以 上

平成 29 年度目黒区立小・中学校における不登校問題への取組み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組の改善	組織体制の整備 ● 校長を中心とした校内体制の強化、 ● めぐる学校サポートセンター内の連携・連絡の強化による支援の充実											
	学力の定着 ● 児童・生徒の状況を踏まえ習熟度に応じた指導の充実 ● めぐるエミール、放課後学習の改善、中学校でのeラーニングモデル実施											
	家庭への配慮支援 ● スクールソーシャルワーカーの増員、メンタルフレンドの人材確保 ● めぐる学校サポートセンターリーフレットの区内施設への配布											
	学校における初期対応マニュアルの改善・活用 ● 初期対応マニュアルの改善を図り、校内での周知を徹底し、早い段階からの適切な対応の実施											
	● 不登校の未然防止・早期発見・適切な対応に向けた取組み改善											
未然防止	傾向のある児童・生徒に関して、小・中・高の確実な引継ぎ				一人一人の児童・生徒に応じた継続支援							
	学校と関係機関とのネットワークの構築				学校や関係機関、スクールカウンセラー（全員面接）などの相談機能の連携強化							
	不登校、集団不適応及び発達障害等に関する専門家への相談及び研修会等の実施											
	放課後学習支援事業による学力の定着											
	めぐる学校サポートセンター職員による学校訪問相談等の実施											
	● 不登校を未然に防ぐための具体的な取組み内容											
早期発見	スクールカウンセラーによる児童・生徒面接（小5・中1の全員面接）、行動観察及びケース会議等における情報の共有 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、医師等の専門家、関係機関との情報の共有化による早期発見											
	予兆者も長期欠席児童・生徒記録（個票）を作成し、具体的な支援策を立て、早期に対応				不登校に関する個票の作成及び提出基準日 5/31、6/30、9/30、11/30、2/28、3/31							
	● 不登校の素早い発見と確実な状況把握											
早期対応	学校や関係機関、スクールソーシャルワーカー、専門家等の連携による相談等の支援											
	めぐるエミールで長期欠席の状況にある児童・生徒に対し、学習に関する個別指導や援助指導を行う。さらに学習支援以外の居場所としての機能を拡充し支援を行う。											
	不登校対策のためのeラーニングによる支援を行う。未然防止にもeラーニングを活用する。											
	長期欠席者に対して、大学で心理学・教育学を専攻している学生がメンタルフレンドとなり、話し相手や遊び相手となる。											
	個別適応計画書（長期欠席児童・生徒及び遅刻・早退の顕著な児童・生徒の記録 個票の裏面）を作成し、児童・生徒の状態や必要としている支援を把握し、適切な支援を行う。											
	● 不登校の解決に向けた素早い取組み											